



2014年2月17日

おきぎん県内景況・確報 2013年（暦年）

- 県内景況は拡大の動き強まる - 2012年景気判断から上方修正

○個人消費関連

スーパー・百貨店売上額…スーパー売上額は「全店ベース」、「既存店ベース」とともに前年を上回る。

百貨店売上額も前年を上回る。

家電卸出荷額…太陽光パネル需要などにより前年を上回る。

新車販売台数…レンタカー需要や新商品（新車種、モデルチェンジ等）により前年を上回る。

○建設関連

公共工事…公共工事請負金額は前年を上回る。

住宅投資・建設資材…着工戸数、生コン、セメントのすべてで前年を上回る。

○観光関連

入域観光客数…2年連続で前年を上回る。（過去最高）

ホテル稼働率…シティホテル、リゾート、ビジネスのすべてで前年を上回る。

観光施設入場者数…2年連続で前年を上回る。

○倒産・雇用

企業倒産…件数、負債総額ともに前年を上回る。

有効求人倍率…前年を上回る。

○生産関連

鉱工業生産（1-11月平均）…前年より上昇。

大口電力使用量…前年を上回る。

○物価関連…消費者物価指数は前年を上回り、ガソリン（レギュラー、軽油）価格も前年を上回る。

現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・確報(2013年) 暦年

◎2013年暦年 おきぎん「カトリア」景況図

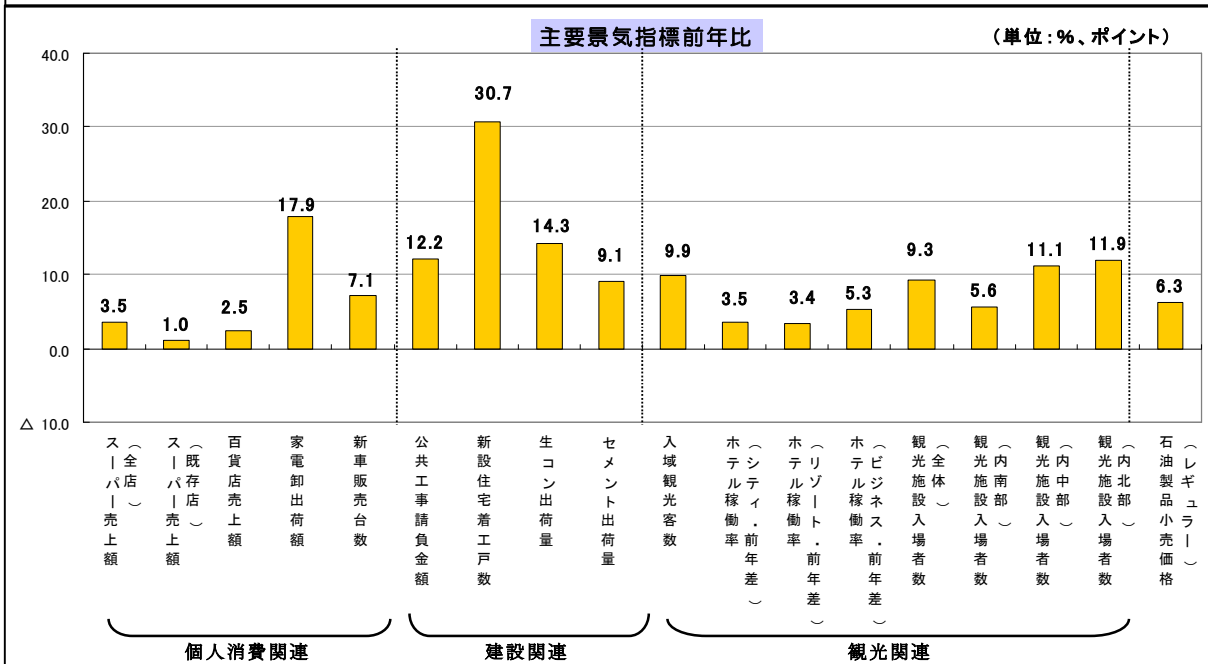


個人消費関連では、スーパー売上額は、「全店ベース」「既存店ベース」ともに前年を上回りました。百貨店売上高は、「身の回り品」や「雑貨」などが好調で前年を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は太陽光パネル需要などにより前年を上回り、新車販売台数もレンタカー需要や新商品(新車種、モデルチェンジ等)需要などにより前年を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額で、市町村や国発注による工事増加に伴い前年を上回りました。新設住宅着工戸数も貸家や分譲住宅などを中心に増加し前年を上回り、建設資材である生コン、セメントもともに前年を上回りました。

観光関連では、入域観光客数は過去最高を更新し、2年連続で前年を上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルの全てにおいて前年を上回りました。観光施設入場者数も前年を上回りました。

このように2013年は、観光関連や建設関連が好調に推移しているほか、個人消費関連による景気を下支えの動きもみられることから、「県内景況は拡大の動き強まる」と景気判断しました。





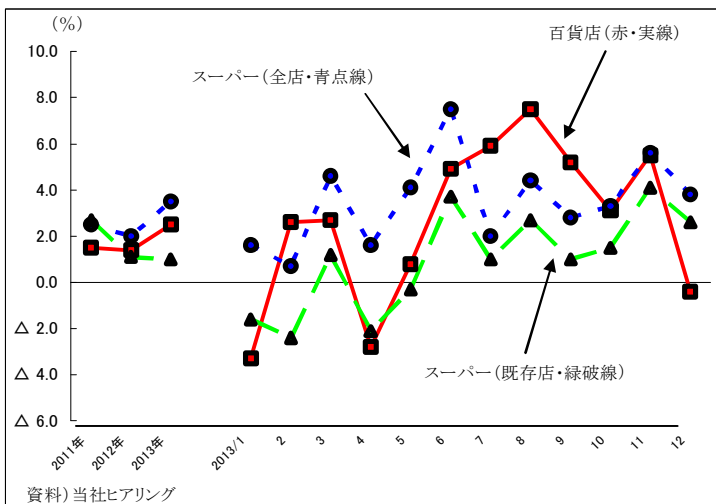
■個人消費：(やや良い)

①スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース、既存店ベースともに前年を上回る。
百貨店売上高も前年を上回る。

単位：%

年/月	スーパー売上高		百貨店 売上高
	全店	既存店	
2011年	2.5	2.7	1.5
2012年	r 2.0	r 1.1	1.4
2013年	3.5	1.0	2.5
2013/1	1.6	△1.6	△3.3
2	0.7	△2.4	2.6
3	4.6	1.2	2.7
4	1.6	△2.1	△2.8
5	4.1	△0.3	0.8
6	7.5	3.7	4.9
7	2.0	1.0	5.9
8	4.4	2.7	7.5
9	2.8	1.0	5.2
10	3.3	1.5	3.1
11	5.6	4.1	5.5
12	3.8	2.6	△0.4

注) 前年比、前年同月比



2013年の個人消費関連では、スーパー売上高が、「全店ベース(前年比 3.5%増)」で前年を上回りました。新店舗の出店効果などにより、ウエイトの高い「食料品(同 3.5%増)」や「衣料品(同 3.0%増)」、「家庭用品(同 4.2%増)」が前年を上回りました。

「既存店ベース(同 1.0%増)」は、前年を上回りました。(以下、既存店ベース)品目別でみると、ウエイトの高い「食料品(同 0.8%増)」は、6月～9月の期間において、前年よりも台風襲来の影響(臨時休業、営業時間短縮、来店客数減少)が今年は少なかったことなどから売上げが堅調に推移したほか、青果物の相場高(10月～12月)も加わり、前年を上回りました。「衣料品(同 0.9%増)」も、前年より台風襲来の影響が少なかったことなどから夏物衣料の売れ行きが好調に推移したほか、年末にかけて気温が低下(11月下旬～12月)したことにより冬物衣料の需要が増加し、前年を上回りました。家電を含む「家庭用品(同 2.0%増)」は、晴天日が多く気温が高かった(6月、8月、9月)ことに加え、消費税増税を見越した新築住宅の増加などにより(11月、12月)、エアコンや冷蔵庫などの白物家電の売上げが好調で前年を上回りました。

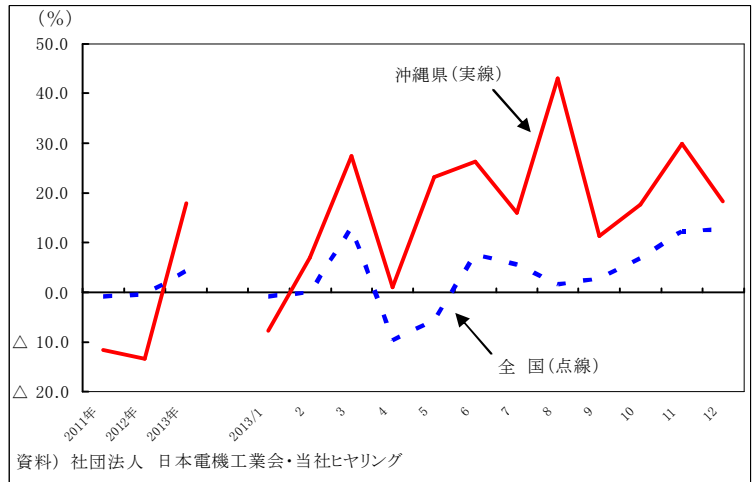
百貨店売上高は、「身の回り品」や「雑貨」などが好調で前年を上回りました(前年比 2.5%増)。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品(同 0.8%増)」は、梅雨明けが前年より早かったことに加え、台風の影響(臨時休業、営業時間短縮、来店客数減少)が今年は少なかったことなどから夏物・秋物衣料の売れ行きが好調で、「紳士服(同 2.1%増)」などが前年を上回りました。一方、「婦人服(同 0.5%減)」は、一部店舗の撤退により1月～4月の売上げが減少したことなどから、前年を下回りました。「身の回り品(同 9.9%増)」は、販促効果(広告強化等)により前年を上回り、「雑貨(同 2.7%増)」は、リニューアル効果や店舗内での新規テナントオープンの影響などにより前年を上回りました。また、「食料品(同 1.2%増)」については、お中元やお歳暮などのギフト関連商品の売れ行きが堅調に推移したことなどから、前年を上回りました。

②家電卸出荷額…太陽光パネル需要などにより前年を上回る。

単位:%

年/月	沖縄県	全国
2011年	△ 11.6	△ 0.8
2012年	△ 13.4	△ 0.4
2013年	17.9	4.3
2013/1		
1	△ 7.8	△ 0.8
2	7.0	0.0
3	27.5	13.0
4	1.1	△ 9.6
5	23.2	△ 5.7
6	26.3	7.6
7	15.9	5.6
8	43.0	1.6
9	11.3	2.8
10	17.6	6.8
11	29.9	12.3
12	18.2	12.7

注) 前年比、前年同月比



家電卸出荷額は、太陽光パネル需要などにより前年を上回りました(同 17.9%増)。品目別でみると、「太陽光パネル(同 50.9%増)」は、2012年7月1日にスタートした「再生可能エネルギーの固定買取価格制度」の影響などにより需要が増加し、前年を上回りました。「エアコン(同 14.1%増)」は、6月～9月において晴天日が続き、気温が高かったことなどから売れ行きが好調だったほか、10月～12月には新築物件向け(アパート、ホテル、住宅等)の需要も増加し、前年を上回りました。「冷蔵庫(同 12.0%増)」も、キャンペーンなどの販売促進活動が奏功し前年を上回りました。一方、「テレビ(同 9.5%減)」は、アナログ放送終了(2011年7月24日)以降続いている地デジ関連製品の需要低迷などにより、売れ行きが低調(1月～7月)だったことから前年を下回りました。「洗濯機(同 5.5%減)」も前年を下回りました。

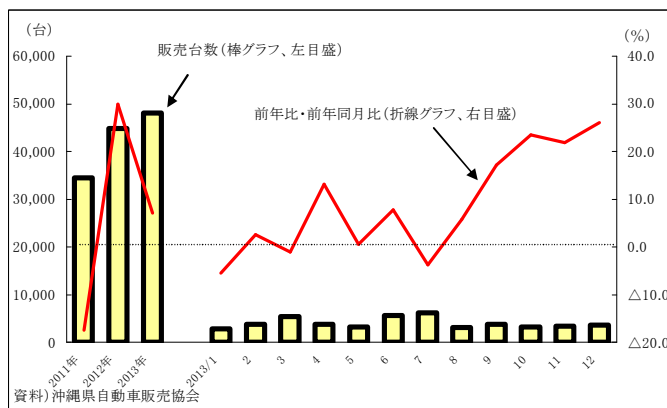
③新車販売台数…レンタカー需要や新商品(新車種、モデルチェンジ等)需要などにより前年を上回る。

単位:台、%

年/月	台数	合計	普通乗用車	小型乗用車	軽乗用車
2011年	34,496	△ 17.5	△ 22.5	△ 17.7	△ 17.4
2012年	44,831	30.0	17.9	26.9	38.5
2013年	48,024	7.1	7.1	9.3	4.4
2013/1					
1	2,902	△ 5.5	△ 25.2	△ 20.7	5.8
2	3,776	2.6	7.4	6.6	2.7
3	5,377	△ 1.1	△ 7.9	△ 6.4	4.5
4	3,763	13.2	△ 7.6	30.2	8.7
5	3,217	0.5	13.2	△ 3.8	△ 2.0
6	5,620	7.8	30.9	27.0	△ 13.4
7	6,267	△ 3.7	△ 7.8	△ 2.4	△ 9.2
8	3,023	5.8	△ 14.3	2.5	6.6
9	3,808	17.2	4.2	24.1	14.6
10	3,226	23.5	37.2	52.4	12.6
11	3,356	21.9	46.3	12.8	16.9
12	3,689	26.1	51.9	24.9	23.7

注) 前年比、前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

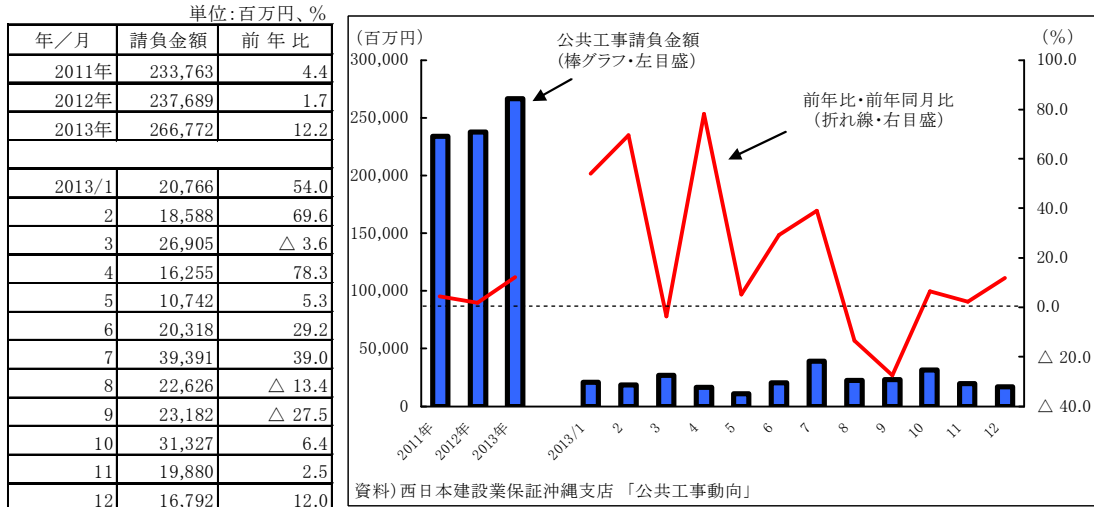


新車販売台数は、全体で 48,024 台となり、前年より 7.1%増加しました。エコカー補助金制度終了(2012年9月21日)の影響など、一部押し下げ要因がみられたものの、レンタカー需要や新商品(新車種、モデルチェンジ等)需要が好調に推移したことなどから暦年ベースでは前年を上回りました。車種別でみると、「普通乗用車(同 7.1%増)」、「小型乗用車(同 9.3%増)」、「軽乗用車(同 4.4%増)」など、全ての車種で前年を上回りました。

※ 普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

■ 建設関連:  (良い)

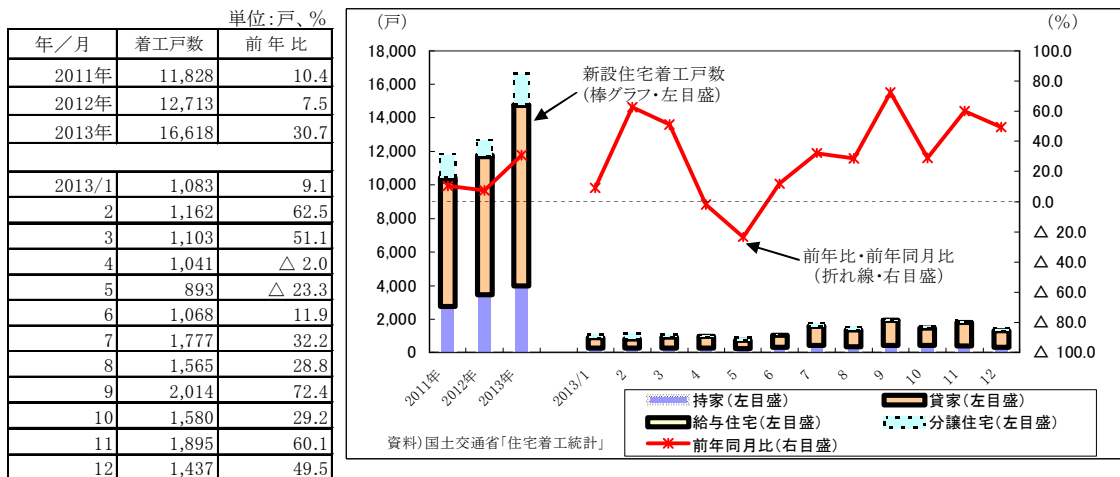
①公共工事…公共工事請負金額は前年を上回る。



注) 年次数値は、毎月値の累計値である

公共工事請負金額は、2,667 億 72 百万円となり、前年を 12.2% 上回りました。発注者別にみると、「沖縄県(同 1.2%減)」が前年を下回った一方、「国(同 25.0%増)」はトンネル工事や高架橋関連工事など、「独立行政法人等(同 44.0%増)」は沖縄自動車道関連工事など、「市町村(同 15.3%増)」はごみ焼却施設建設や製糖工場機械設備工事など、「その他の公的団体(同 11.3%増)」は大学関連工事などにより増加し、前年を上回りました。

②住宅投資・建設資材・・・着工戸数、生コン・セメントのすべてで前年を上回る。



新設住宅着工戸数は、16,618 戸となり、前年を 30.7% 上回りました。利用別内訳でみると、「給与住宅(同 51.8%減)」が前年を下回ったものの、ウェイトの高い「貸家(同 30.5%増)」をはじめ、「分譲住宅(同 93.8%増)」や「持家(同 15.9%増)」などが増加し、全体を押し上げました。**建設資材関連**では、**生コン**の出荷量は、全体で同 14.3%増と 2 年連続で前年を上回りました。内訳をみると、公共工事向けの出荷が前年を 14.2% 上回り、民間工事向けの出荷も 14.3% 上回りました。**セメント**の出荷量は、同 9.1%増と 2 年連続で前年の出荷実績を上回りました。

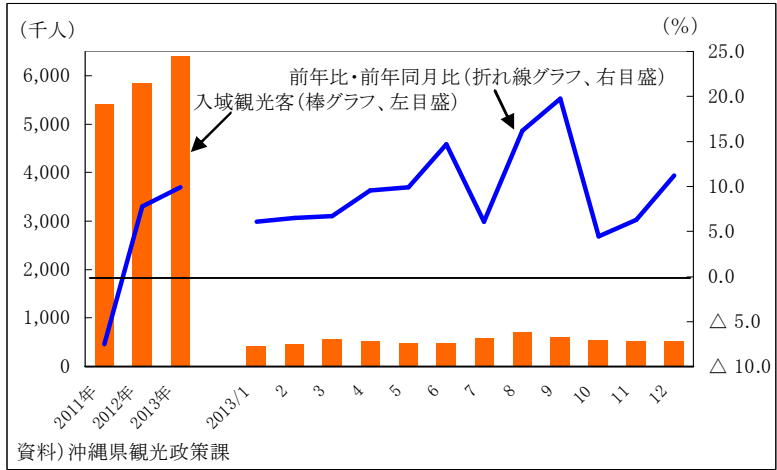


■観光関連: (良い)

①入域観光客…2年連続で前年を上回る。(過去最高を更新)

単位:千人、%

年/月	入域観光客	前年比
2011年	5,415.5	△ 7.5
2012年	5,835.8	7.8
2013年	6,413.7	9.9
2013/1		
1	429.7	6.1
2	463.2	6.5
3	568.9	6.7
4	516.3	9.6
5	477.6	10.0
6	489.1	14.7
7	583.9	6.1
8	705.5	16.2
9	607.4	19.7
10	543.0	4.5
11	513.6	6.3
12	515.5	11.2



注)外国客は特例上陸者数を含む

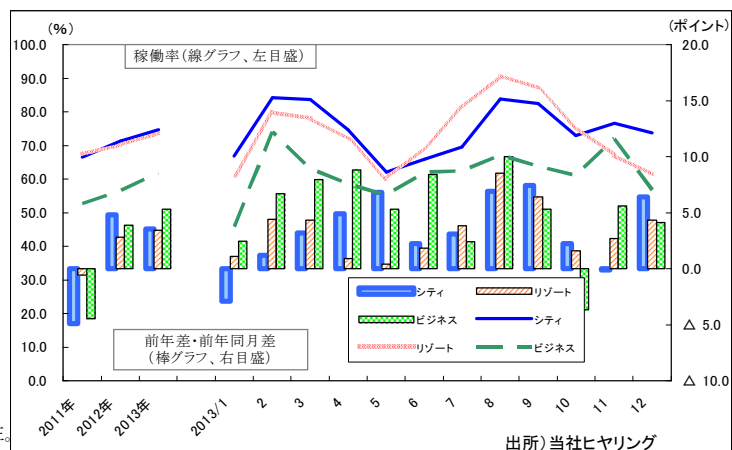
入域観光客数は、641.3 万人(前年比 9.9%増)となり、2008 年(604.5 万人)を超え、過去最高を更新しました。内訳をみると、「国内客(同 7.4%増)」は 586.2 万人となり2 年連続で前年を上回りました。円安に伴う海外旅行からの国内シフトや国内の景況感が上向いたことなどから国内旅行需要が高まりました。また、LCC 就航や新石垣空港開港などによる航空路線の拡充、沖縄本島への台風近接の減少などから、各主要路線で前年を超え、国内客としては過去最高となりました。

他方、「外国客(同 46.2%増)」は、55.0 万人となりました。「中国本土(同 31.2%減)」は2012 年9月に起こった尖閣諸島問題の影響を受け前年を下回りましたが、円安基調に伴う訪日旅行需要が高まったことに加え、航空路線の拡充などから「台湾(同 67.6%増)」「韓国(同 133.9%増)」「香港(同 45.3%増)」など各主要路線で前年を上回り、初めて 50 万人を超えました。 ※特例上陸者数を含む

②ホテル稼働率…シティホテル、リゾート、ビジネスのすべてで前年を上回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2011年	66.4	67.4	52.6	△ 4.9	△ 0.6	△ 4.5
2012年	71.2	70.2	56.5	4.8	2.8	3.9
2013年	74.7	73.6	61.8	3.5	3.4	5.3
2013/1						
1	66.9	61.0	45.8	△ 2.9	1.1	2.5
2	84.1	79.8	74.0	1.2	4.4	6.7
3	83.5	78.1	63.0	3.2	4.3	7.9
4	74.6	71.9	58.5	4.9	0.9	8.8
5	62.0	60.0	55.2	6.8	0.4	5.3
6	65.9	69.3	61.9	2.2	1.8	8.4
7	69.4	81.2	62.4	3.1	3.8	2.4
8	83.8	90.7	67.1	6.9	8.5	10.0
9	82.4	87.0	63.7	7.4	6.4	5.3
10	73.0	75.4	61.0	2.2	1.6	△ 3.7
11	76.6	67.0	72.0	△ 0.1	2.7	5.6
12	73.7	61.3	56.8	6.4	4.3	4.1



注)シティ10ホテル、リゾート19ホテル、ビジネス7ホテル
※調査対象施設変更により2011年に遡りシティ、リゾートを修正。
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが 74.7%と 3.5 ポイント、リゾートホテルが 73.6%と 3.4 ポイント、ビジネスホテルが 61.8%と 5.3 ポイント上昇し、全てにおいて前年を上回りました。

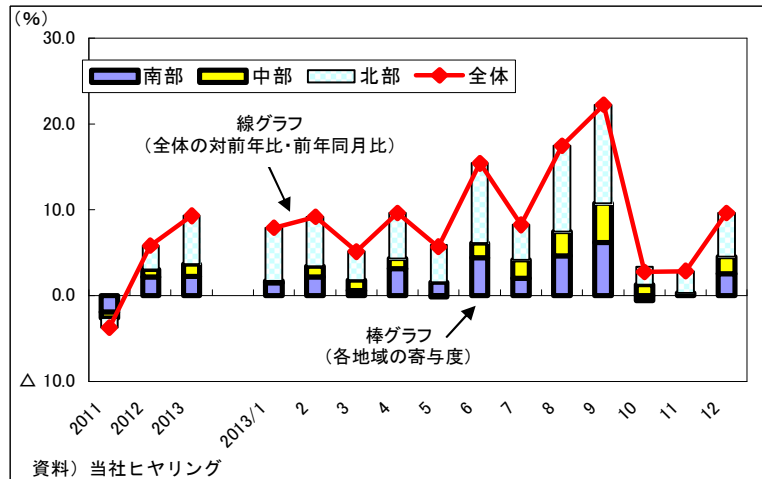
※2013 年 6 月に調査対象施設を見直し、シティホテル、リゾートホテルは 2011 年に遡って修正した。

③観光施設入場者数…2年連続で前年を上回る。

単位:%

	入場者数(前年比)			
	全体	南部	中部	北部
2011	△ 3.7	△ 4.7	△ 5.5	△ 2.3
2012	5.9	5.4	7.0	5.9
2013	9.3	5.6	11.1	11.9
2013/1	7.9	3.7	1.5	13.7
2	9.2	5.5	9.6	12.1
3	5.1	1.5	8.6	7.4
4	9.6	7.8	8.1	11.7
5	5.7	3.7	△ 1.1	9.7
6	15.4	10.6	14.5	19.9
7	8.2	5.9	18.6	7.5
8	17.5	13.2	21.2	19.4
9	22.2	17.4	38.6	21.9
10	2.7	△ 1.4	10.2	4.6
11	2.9	0.6	0.05	6.1
12	9.7	6.0	14.4	11.6

*調査対象施設数＝南部6、中部6、北部5施設
グラフは全体の寄与度を表示。



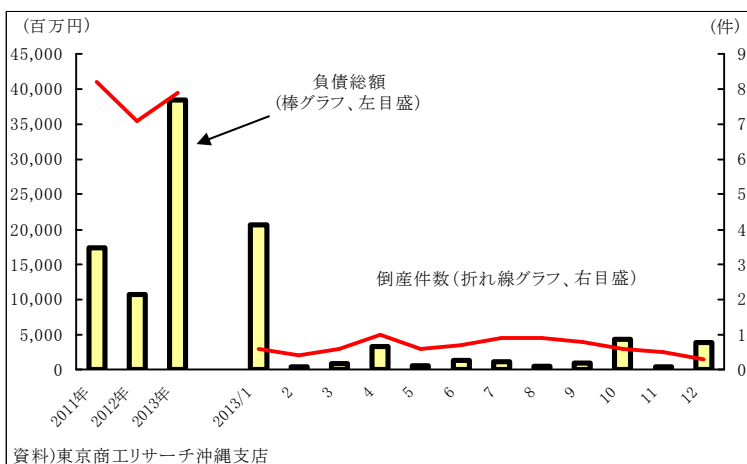
観光施設入場者数は、全体として前年比 9.3%増加し 2年連続で前年を上回りました。地域別では、南部にある観光施設は前年比 5.6%増(2年連続)、中部が同 11.1%増(2年連続)、北部にある観光施設は同 11.9%増(2年連続)と、各施設ともに前年を上回りました。

■企業倒産： (ふつう)


企業倒産…倒産件数、負債総額ともに前年を上回る。

単位:百万円、件

年/月	負債総額	倒産件数
2011年	17,374	82
2012年	10,745	71
2013年	38,418	79
2013/1		
2	406	4
3	813	6
4	3,295	10
5	603	6
6	1,320	7
7	1,083	9
8	519	9
9	971	8
10	4,376	6
11	419	5
12	3,910	3



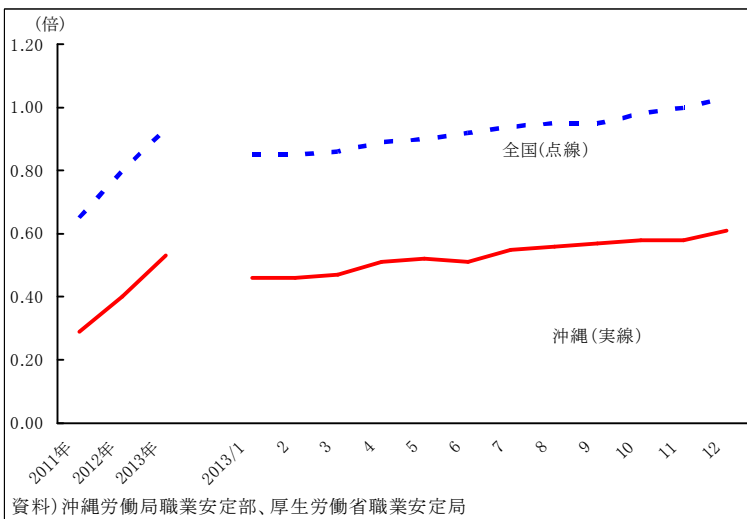
企業倒産は、件数が前年より11.3%多い79件(10億円以上の大型倒産が5件)となり、金融円滑化法延長などのあった前年より増加しましたが、低水準となりました。負債総額は、不動産賃貸業や建築業などの大型倒産があったため、前年より257.5%多い384億1,800万円となりました。

■雇用関連： (ふつう)

有効求人倍率…沖縄県、全国ともに前年を上回る。

単位:倍

年/月	沖縄県	全国
2011年	0.29	0.65
2012年	0.40	0.80
2013年	0.53	0.93
2013/1		
2	0.46	0.85
3	0.47	0.86
4	0.51	0.89
5	0.52	0.90
6	0.51	0.92
7	0.55	0.94
8	0.56	0.95
9	0.57	0.95
10	0.58	0.98
11	0.58	1.00
12	0.61	1.03



注)月別の数値は、季節調整済
注)季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による

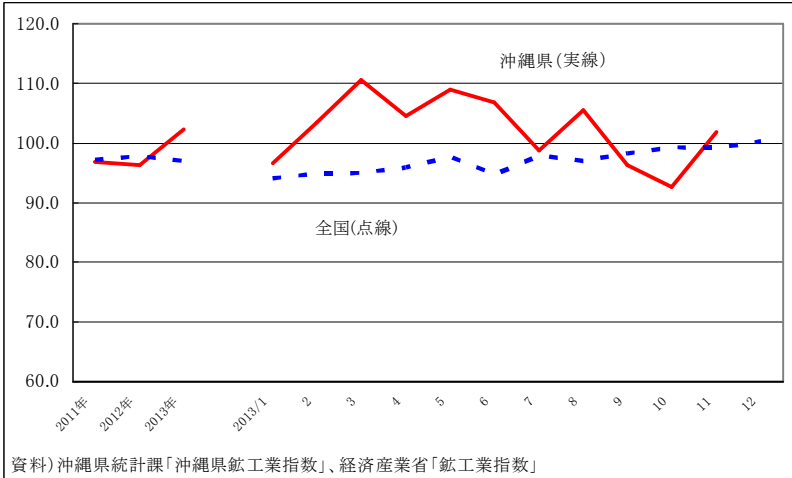
雇用状況は、年平均有効求人数が17,212人(前年比18.6%増)に対し、年平均有効求職者数が32,534人(前年比10.9%減)となり、有効求人倍率(原指数の平均)は0.53倍と前年を0.13ポイント上昇しました。完全失業率(年平均)は、前年より1.1%ポイント改善(下落)し、5.7%となりました。



■ 鉱工業・大口電力関連: (ふつう)

① 鉱工業生産指数…沖縄県は前年を上回り、全国は下回る。

年/月	県内	全国
2011年	96.8	97.2
2012年	96.3	97.8
2013年	P 102.3	P 97.0
2013/1	96.6	94.1
2	103.5	94.9
3	110.6	95.0
4	104.6	95.9
5	109.0	97.7
6	106.8	94.7
7	98.8	97.9
8	105.5	97.0
9	96.3	98.3
10	92.6	99.3
11	101.9	99.2
12	—	P 100.3



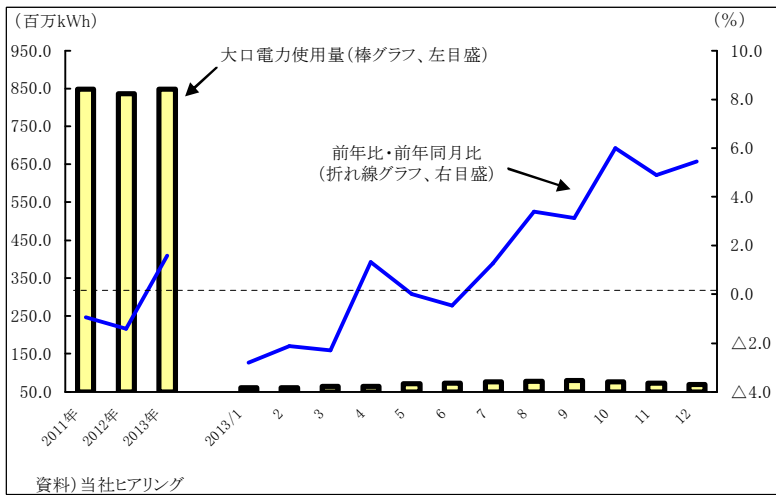
注1) 数値は暦年が原指数、月次が季節調整指数。
注2) 沖縄県は2013年1～11月の平均値
注3) 基準は2010年=100、注4) P⇒速報値

鉱工業生産指数 (IIP) は、前年比 6.2% 上昇し、102.3(1～11 月原指数の平均値)となりました。業種別にみると、「食料品工業(同 4.9%増)」や「窯業・土石製品工業(同 8.1%増)」、「その他の工業(同 29.3%増)」が前年より上昇しました。


② 大口電力使用量…鉄鋼業や窯業土石製造業での需要増等により前年を上回る。

単位: 百万kWh、%

年/月	大口電力使用量	前年比
2011年	847.0	△ 0.9
2012年	835.4	△ 1.4
2013年	848.5	1.6
2013/1	62.2	△ 2.8
2	60.8	△ 2.1
3	64.0	△ 2.3
4	63.7	1.3
5	71.7	0.0
6	72.6	△ 0.5
7	76.6	1.3
8	78.9	3.4
9	79.2	3.1
10	75.5	6.0
11	73.3	4.9
12	70.0	5.4



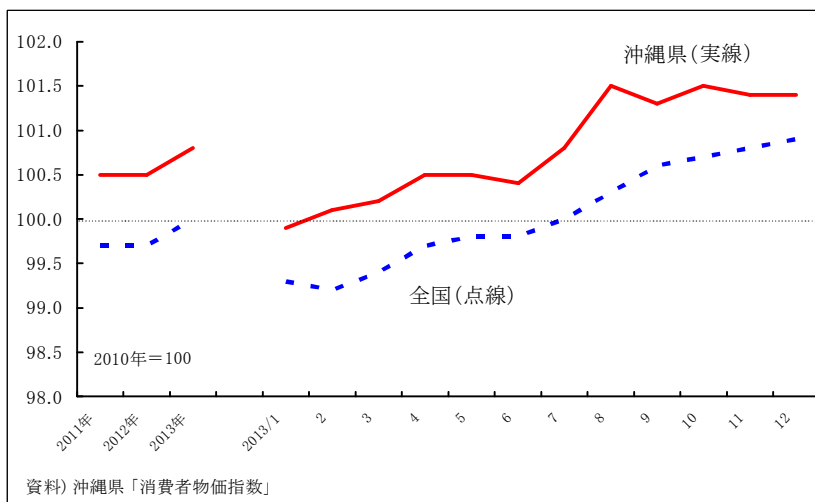
大口電力使用量は、鉄鋼業や窯業土石製造業での需要増などから前年比 1.6% 増の 848.5 百万kWh となり、前年を上回りました。

■物価関連:  (ふつう)

①消費者物価指数…沖縄県、全国ともに前年を上回る。

2010年=100		
年/月	沖縄県	全国
2011年	100.5	99.7
2012年	100.5	99.7
2013年	100.8	100.0
2013/1		
2	99.9	99.3
3	100.1	99.2
4	100.2	99.4
5	100.5	99.7
6	100.5	99.8
7	100.8	100.0
8	101.5	100.3
9	101.3	100.6
10	101.5	100.7
11	101.4	100.8
12	101.4	100.9

注)総合指数

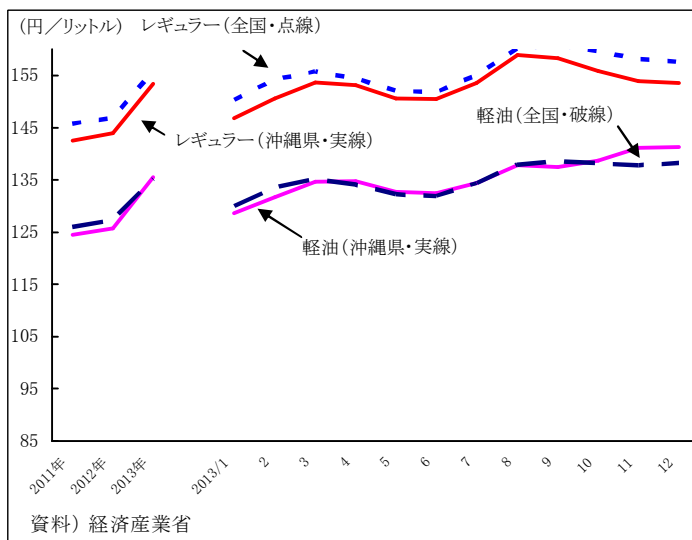


消費者物価指数 (CPI) は、生鮮食品を含めた総合指数が 100.8 (全国は 100.0) となり前年より 0.3% 上昇(全国も 0.3% 上昇) となりました。内訳をみると、自動車等関連費を含む「交通・通信(同 1.7% 増)」や電気代などの「光熱・水道(同 1.9% 増)」が上昇し、全体を押し上げました。

②石油製品小売価格…レギュラー、軽油ともに前年を上回る。

単位:円/リットル

年/月	沖縄県		全国	
	レギュラー	軽油	レギュラー	軽油
2011年	142	125	146	126
2012年	144	126	147	127
2013年	153	135	156	135
2013/1				
2	147	129	150	130
3	151	132	154	134
4	154	135	156	135
5	153	135	154	134
6	151	133	152	132
7	151	132	152	132
8	154	134	155	134
9	159	138	160	138
10	158	137	161	139
11	156	139	160	138
12	154	141	158	138
12	154	141	158	138



注) 年次、月次データは週次調査結果の平均値を用いている。

石油製品小売価格は、円安などの影響により前年を上回りました。品目別でみると、ガソリンのレギュラー小売価格(消費税込み)は前年より 6.3% (全国は 6.1% 増)、軽油価格も 7.1% (全国は 6.3% 増) 上昇しました。